

光学医療センター（内視鏡部）

1. スタッフ（平成23年4月1日現在）

センター長（教授） 山本 博徳
部長（准教授） 佐藤 貴一
医員

消化器センター（内科部門）

（教授） 菅野健太郎（兼務）
（准教授） 玉田 喜一（兼務）
長嶺 伸彦（兼務）
磯田 憲夫（兼務）
武藤 弘行（兼務）
（講師） 大澤 博之（兼務）
和田 伸一（兼務）
富山 剛（兼務）
大橋 明（兼務）

砂田圭二郎
田野 茂夫（兼務）
東澤 俊彦（兼務）
畑中 恒（兼務）

（助教） 矢野 智則（兼務）
病院助教

大竹 俊哉
佐藤 博之（兼務）
牛尾 純（兼務）
林 芳和（兼務）
太田 英孝（兼務）
篠崎 聡（兼務）
中澤 克行（兼務）
西村 直之
平澤 知介（兼務）
吉澤 充代（兼務）
坂本 博次（兼務）
當摩 祥子（兼務）
三浦 義正（兼務）

シニアレジデント 12名

非常勤講師 井戸 健一
富田 知彦

非常勤医員 津久井舞未子

消化器センター（外科部門）

（准教授） 細谷 好則（兼務）
堀江 久永（兼務）
（講師） 俵藤 正信（兼務）
宮倉 安幸
（助教） 鯉沼 広治（兼務）
瑞木 亨（兼務）
病院助教 倉科憲太郎（兼務）

佐久間和也（兼務）

呼吸器センター（内科部門）

（教授） 杉山幸比古（兼務）
（准教授） 坂東 政司（兼務）
（講師） 山沢 英明（兼務）
（助教） 細野 達也（兼務）
中屋 孝清（兼務）
間藤 尚子（兼務）
病院助教 鈴木 恵里（兼務）
水品 佳子（兼務）
中澤 昌子（兼務）

シニアレジデント 1名

呼吸器センター（外科部門）

（教授） 長谷川 剛（兼務）
（講師） 山本 真一（兼務）
（助教） 大谷 真一（兼務）
手塚 憲志（兼務）
病院助教 金井 義彦（兼務）
手塚 康裕（兼務）
遠藤 哲哉（兼務）

放射線科

病院助教 歌野 健一（兼務）
シニアレジデント 1名

2. 光学医療センター（内視鏡部）の特徴

消化器に関して、診断および治療内視鏡が多大な貢献をしている。診療は、消化器センター内科学部門、外科部門、および富士フィルム国際光学医療学講座の医師が主に従事している。他に呼吸器センター内科および外科部門の医師も診療に従事している。予約の窓口はひとつであり、JUMP端末のどこからも自由に予約を取れるオープンシステムである。

・施設認定

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度指導施設

・専門医

日本消化器内視鏡学会指導医 山本 博徳 他22名
日本消化器内視鏡学会専門医 山本 博徳 他14名
日本消化器病学会指導医 山本 博徳 他12名
日本消化器病学会専門医 山本 博徳 他33名

日本肝臓学会指導医	磯田 憲夫 他2名
日本肝臓学会専門医	磯田 憲夫 他4名
日本超音波医学会指導医	玉田 喜一 他3名
日本超音波医学会専門医	玉田 喜一 他6名
日本呼吸器学会指導医	杉山幸比古 他1名
日本呼吸器学会専門医	杉山幸比古 他7名
日本呼吸器内視鏡学会指導医	杉山幸比古
日本呼吸器内視鏡学会専門医	杉山幸比古
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医	長谷川 剛
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医	長谷川 剛 他7名
日本外科学会指導医	細谷 好則 他10名
日本外科学会専門医	細谷 好則 他37名
日本消化器外科学会指導医	俵藤 正信 他2名
日本消化器外科学会専門医	細谷 好則 他2名
日本呼吸器外科学会専門医	長谷川 剛 他2名
日本胸部外科学会指導医	長谷川 剛
日本がん治療認定医機構暫定教育医	長谷川 剛 他2名
American Society for Gastrointestinal Endoscopy, Active member	山本 博徳 他5名

3. 実績・クリニカルインディケータ

1) 検査件数

消化管部門では、上部消化管内視鏡検査8,268件、大腸内視鏡検査4,038件、小腸内視鏡検査377件、超音波内視鏡582件（うち上部消化管340、Varix53、胆膵141）、ERCP383件が行われた。呼吸器部門では、気管支鏡検査が676件、気管支生検が379件行われている。

2) 治療件数

上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）180件、粘膜切除術17件、大腸ポリプポリペクトミー602件、EMR463件、粘膜下層剥離術87件、小腸内視鏡下の処置、治療150件、内視鏡的食道静脈瘤結紮療法（EVL）／硬化療法99件、内視鏡的胆道ドレナージ術133例、乳頭拡張術70例。

3) クリニカルインディケータ

(1) 治療成績

- ・上部消化管ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）
 - 胃 一括切除率 98.1%（161/164病変）
 - （断端陰性完全一括切除率 93.3% 153/164）
 - 食道 一括切除率 97.5%（39/40病変）
 - 十二指腸 一括切除 77.0%（7/9病変）
- ・下部消化管ESD
 - 一括切除率 95.0%（77/81病変）
 - （腫瘍サイズ平均、長径36.0mm）
 - カルチノイドおよびESD適応外病変は除く
- ・肝細胞癌に対する腹腔鏡的治療（ラジオ波、マイクロ

波含む）

1999～2010年、612症例、局所再発率 5.6%

- ・食道静脈瘤治療（EVL）
- 54症例（完遂44症例、総治療回数98回）、再発率 22.8%
- ・総胆管結石 完全截石率 97.4%（75/77）
- ※完全截石とは、一回の入院中に截石が完了した患者。

(2) 合併症

上部消化管ESD

出血 6.9%（15/216）

穿孔 2.3%（5/216）

下部消化管ESD

出血率 1.2%（1/81）

穿孔率 6.1%（5/81）

ERCP後膵炎発生率 2.7%（9/332）うち重症1件（0.3%）

グループ毎に消化器センター内科・外科合同カンファランスが行われている。他にセンター全体の内科・外科カンファランスも行われている。

内科・外科下部消化管カンファ（毎週木曜日）

内科・外科胆膵カンファ（毎月一度月曜日）

内科・外科肝カンファ（毎月一度月曜日）

センター全体カンファ（毎月一度水曜日）

他職種と合同のカンファ

毎月一度（第2水曜日）各検査グループからなる内視鏡診療代表医師と、内視鏡看護師および事務職により構成される内視鏡定例会により、内視鏡室の安全かつ効率の運営を行うための会議が定期的に開かれている。

4. 事業計画・来年の目標等

- 1) 内視鏡研修・教育におけるソフトとハードを充実する。
 - 消化器内科ジュニアレジデント教育のためのマニュアルを作成し、上部内視鏡トレーニングモデル機を増やした。その後、ジュニアレジデントで内視鏡ローテートを選択する医師が増加している。今後、シニアレジデント、後期研修生の教育計画を検討する。後期研修としてはフェローシップ制度を取り入れ、3年間を目途に消化器病専門医取得を目標とした研修を行う。
- 2) 内視鏡修理費削減を目指して、内視鏡検査に従事する医師を対象に、内視鏡取り扱い講習会を行っている。ここ数年1年間あたりの修理費は明らかな低下傾向を示しており、今後も継続の予定。
- 3) 機器更新の長期的予定を立てる。数年間での要望提出を検討している。
- 4) 救急症例の緊急内視鏡を、救急外来において行える

ように、2009年に上部消化管内視鏡と光源が配備された。今後さらに救急部との連携を行う。

- 5) 2012年度に、内視鏡情報管理システムの更新を予定している。